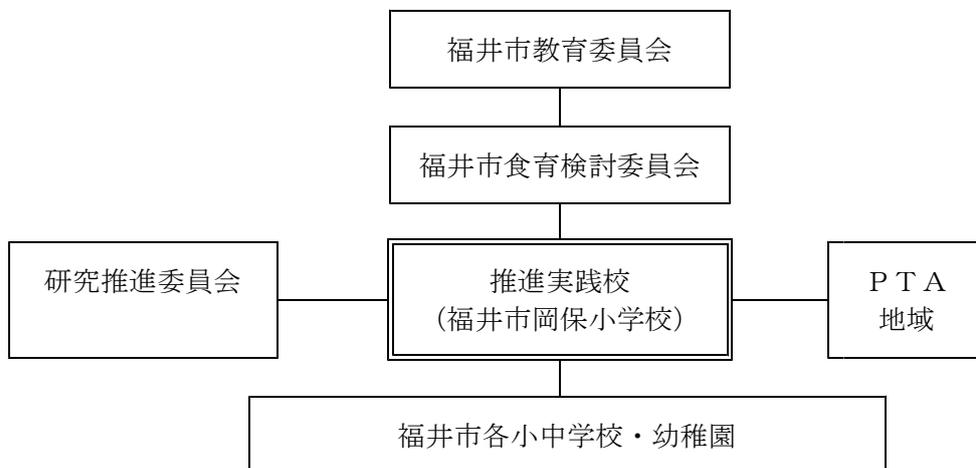


再委託先名	福井市
-------	-----

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1	地域の特産物・郷土料理についての学習及び実習
○栽培活動を通して、作物に関する関心を高め、愛情をもつ。	
<ul style="list-style-type: none"> ・「あいじょう畑」での野菜栽培活動 ・「わらんべ田」での田植えと稲刈り体験 (収穫したお米はマリ共和国へ) 	 
○学年毎に「食」に関するテーマを決め、総合的な学習や生活科において食育に関する内容を取り扱い、関心を高め理解を深める。	
<ul style="list-style-type: none"> ・1年 「サツマイモを育ておいしく食べよう」 ・2年 「夏野菜を育てよう」 ・3年 「大豆の変身について調べよう」 ・4年 「コシヒカリのひみつをさがろう」 ・5年 「朝食夕食大作戦」 ・6年 「食からみた日本」 	 
○栄養教諭による食に関する指導	
<ul style="list-style-type: none"> ・1年 「きゅうしょく だいすき」 ・2年 「なつやさいって すごいな」 ・3年 「食べ物のはたらきを知ろう」 	<ul style="list-style-type: none"> 4年 「おいしいお米のひみつ」 5年 「朝食のひみつ」 6年 「福井のおいしい郷土料理」

○地域の施設、出前授業（人材）を活用した体験活動



【県農業試験場訪問】



【バター作り】



【食育出前授業】



【味噌づくり】



【こんにゃくでんがくづくり】

○地域の特産物から児童がメニューを考案し、調理員・栄養教諭と一緒に調理コンテストに出場



【おおい町の食材（へしこ）を使った交流給食】

【調理コンテスト】



「パリパリ揚げと水菜のサラダ」
「鶏飯、愛情野菜のスープ煮」
「メロン、牛乳」

テーマ2 児童の相互交流による「ふくいのみ食」についての理解を深める学習

○福井市と交流地域（おおい町）の特産物や郷土料理についての情報交換

- ・ 岡保地区の特産物や学校紹介のVTRの送付
- ・ 学習内容、特産物、郷土料理についての情報交換
- ・ 特産物を使用した調理実習

○交流地域（おおい町）における交流学習（7月31日）



【郷土料理（へしこ、梅）】



【魚釣り体験】



【じゃこ天づくり】

魚釣りや釣った魚をさばきじゃこ天を作った活動は、岡保とは異なる食材や食文化に触れることができる貴重な体験となった。

○福井市においての交流学习（10月2日）



【お米の食べ比べ】



【交流給食（六条大麦カレー）】



【米粉のムース・ケーキ作り】

県農業試験場での「お米の歴史」についての話を聞いたり、「お米の食べ比べ」をしたりしたことで、コシヒカリは福井県発祥のブランド米であることを再認識した。

テーマ3 学校内外への交流活動の情報発信

○保護者に対して、学校・給食だより等を通じて岡保地区や交流地域（おおい町）の特産物や郷土料理（レシピを含む）、児童の活動の様子を紹介

- ・学校、給食だより、掲示物等で紹介
- ・「ふるさと祭り」で郷土料理の展示コーナーを設置

○収穫感謝祭の実施

○学習発表会で各学年「食」をテーマに学習したことを発表

○県農業試験場や食育ボランティアとしてお世話になった方を招いての招待給食を実施

○実践発表会（県主催）での発表



テーマ1～3に共通する具体的計画

○「栄養教諭を中核とした食育推進事業」検討委員会の設置

- ・第1回検討委員会の開催：7月23日（月）
再委託内容を確認し、本事業についての検討協議
- ・第2回検討委員会の開催：9月6日（木）
交流学习についての意見交換
- ・第3回検討委員会の開催：2月5日（火）
最終報告会と交流会の結果など本事業の成果、アンケート調査について

○「本事業に関するアンケート結果」より：（6年生 6月・1月に実施 福井市教育委員会）

項目	事業実施前	事業実施後
「食育の学習が楽しい」と感じている児童の割合	26.9%	84.7%
「食育の学習が役に立つ」と感じている児童の割合	57.7%	96.1%
「福井市以外の特産物を知っている」児童の割合	80.8%	88.5%
「福井市以外郷土料理を知っている」児童の割合	19.2%	65.4%
「郷土料理が好き」と感じている児童の割合	23.1%	61.5%

- ・大島小学校との交流をはじめ様々な体験活動を行うことで、「食」について楽しく学ぶことができた。また、「食」について様々な角度から学習を深めた結果、改めて「食」は生きる上で大切であると感じている。
- ・他地域の特産物や郷土料理について学び、調理実習や給食で味わうことでより一層関心が高まった。

本事業における評価指標

○「食に関するアンケート結果」より（H23・H24、11月に実施 福井県教育委員会）

項目	平成23年度	平成24年度
朝食欠食率（食べない日が多い、食べない）	0.7%	0%
残食率	18.6%	21.5%
福井市地場産物使用率（重量ベース）	29.0%	29.8%
福井市地場産物学校給食実施校	100%	100%
「学校給食が好き」と感じている児童の割合	88.2%	90.8%

- ・今回の事業を実施した結果、学校全体として「残食率」は改善しなかったが、この事業の主体となった6年生に限れば、「残食率」は0%であった。また、現6年生が5年生の時に実施したアンケートでは、「学校給食が好き」と答えた児童は76.0%であったが、事業実施後のアンケートでは、96.1パーセントの児童が「好き」と回答している。
このことから、今回の事業は、「食事の喜び・楽しさ」「食育の重要性」「自然の恵み」「勤労の尊さ」「感謝の念」の育成を図る上で一定の成果があったといえる。

本事業の成果

- ・今回の「栄養教諭を中核とした食育推進事業」を核として、交流学年だけでなく学校全体として「食に関する指導目標」を設定し食育に取り組んだ。また、地域主催の「ふるさとまつり」では、「知ろう 育てよう 岡保の おいしんぼ」をメインテーマに、地域と学校が一体となって取り組んだことで、児童・教職員はもとより保護者や地域の「食」についての関心が高まり理解を深めることができた。
- ・他地域と特産物の交換や郷土料理の情報交換を行うことで、より地元の特産物や郷土料理に興味、関心を持つようになった。また、食文化や食に関わる歴史等を理解することで、改めて福井の良さに気づき、郷土愛を育むことができた。
- ・栄養教諭の高い専門性を生かし、教職員と協働して食に関する指導が適切になされた。また、校区内の食育のコーディネーターとして関係者とのネットワークを構築し、家庭や地域との連携・調整の要として事業を推進することができた。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- ・食育の目的を達成するために、交流学年だけでなく学校全体で「食」をテーマに取り組み、学校から家庭・地域への働きかけや啓発を行い連携を深めていくことが大切である。
- ・栽培活動を中心とした取り組みの場合、年度当初から計画的に取り組む必要がある。また、交流学

- 習の日と特産物の収穫時期が合わないため、交流の日に体験学習で使用する特産物が限られてくる。
- 他地域（遠方）との交流を行うには、時間面、連絡調整等、クリアしなければならない課題が多い。
 - 多忙化を極める中、一過性で終わらせないためにも教育課程を工夫し無理なく実践していくことが必要である。